

令和 4 年度 清原北小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

「人間尊重の教育」を基盤に、自ら考え、正しく判断し、豊かな心をもって、たくましく生きる児童を育成する。

【考え深く】

【こころ豊かで】

【たくましく】

活用期	・ 自ら考え、工夫する子	・ こころ豊かで思いやりのある子	・ 気力と体力のあるたくましい子
基礎期	・ 自分で考え、学習する子	・ 親切で思いやりのある子	・ 元気でがんばる子

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

【小規模特認校として、保護者や地域から信頼され連携・協力しながら、夢と理想をもって共に成長していく学校】

児童一人一人の良さを伸ばし、その成長を支え促す学びの場となるよう、児童・教職員・保護者・地域が互いに信頼し合い、関わり合いながら教育活動を一層充実させ、特色ある学校づくりを推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

《基本方針》 児童・教職員・保護者・地域が連携を深め、地域の教育力を高めながら教育活動の充実を目指し、特色ある教育活動のキーワードとして「合言葉・3つの学び」を提示するとともに、「3つの学び」に対応した「学校づくりの3視点」を設定し、学校運営に参画するための「教職員の資質」を念頭に置いて学校経営に努める。

- （1）めあてと達成感：児童一人一人がめあてをもって、生き生きと学習や活動に取り組み、達成感を味わうことのできる学校をつくる。
- （2）自己肯定感と思いやり：児童が自分の良さに気づき、他者の良さも認め、思いやりの心をもって互いに伸びていこうとする気風が満ちている学校をつくる。
- （3）気力と体力：児童自らが、体力・健康・食生活の向上・安全を関連付けた望ましい生活習慣を身に付け、気力と体力が充実している学校をつくる。

〔清原地域学校園教育ビジョン〕 自己を見つめ、自己のよさを生かした夢の実現に向けて、主体的に取り組む
児童生徒の育成 2nd stage ～人との豊かなかかわりを通して～

4 教育課程編成の方針

- ・ 小規模特認校として、児童の実態や学校の特色、地域の教育力を生かして家庭や地域との連携を図る。
- ・ 教育課程を介して目標を学校と保護者、地域が共有し、教育内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを明確にしながら、保護者や地域との連携・協働によりその実現を図る。
- ・ 教科的横断的な視点に立ち、教育内容を組織的に配列したり、教育活動に必要な人的・物的資源等を活用したりする。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

- 小規模特認校として、学校・家庭・地域が互いに連携を深め、小中一貫教育の基本方針に沿いながら学校力の向上を図る。
- ・ 教職員として研鑽を積み、専門職としての資質・能力を高め、協働しながら教科・学級・学校経営の適正化を図る。
- ・ 業務の効率化や適正化を図るとともに、勤務時間を意識した働き方を推進する。

【学 習 指 導】

- ・ めあてが「はっきり」分かり、「じっくり」考え、「すっきり」振り返る授業を展開し、個に応じたきめ細やかな指導により、「基礎学力の定着」を図る。
- 主体的に学ぶ力と、人との豊かなかかわりを通して学ぶ力を養う。

【児 童 生 徒 指 導】

- ・ 自分のよさや可能性を認識し、進んで課題解決や目標達成に取り組むための資質・能力として「自己肯定感」を育む。
- 認め合い、励まし合い、協力し合える豊かな人間関係を築き、みんなと心が通い合う学校の雰囲気醸成する。

【健康（体力・保健・食・安全）】

- 体力向上・健康増進・食生活の充実・安全に関する望ましい生活習慣を身に付けさせ、心身ともに「健康で安全な生活を創る力」を育成する。

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目 指 す 児 童 の 姿	A1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上	① 引き続き、ねらいや目標を明確にし、見通しをもたせた授業を行うと共に、振り返りの仕方や書き方を指導し、個人内の変容や価値の一般化を図れるようにする。 ② 単元によって習熟度別学習を適切に取り入れ、学習内容の基礎基本の定着を図る。 ③ ICT支援員と連携し一人一台端末を活用した授業を行ったり学校課題に関わる研修を計画的に実施したりして、授業に活かす。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答 95.4% 【次年度の方針】 ① ねらいや目標を明確にし、見通しをもたせた授業を行うと共に、振り返りの仕方を指導し、個人内の変容が図れるようにする。 ② 単元によって習熟度別学習を適切に取り入れ、学習内容の基礎基本の定着を図る。 ③ ICT支援員と連携し一人一台端末を活用した授業を行ったり研修を計画的に実施したりして、授業の充実を図る。
	A2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒教職員 80%以上	① 掲示物「ハッピーな～べ～号」を月2回以上活用してよい所を認め、紹介したり、道徳科の授業を中心に多様な考えや価値観を認め合う機会を多く作ったりする。 ② 「ふわふわ言葉」を推奨し、 <u>優しい言葉遣いで相手に接することができるように、児童集会での啓発や各教室の掲示物、毎朝の校内放送を活用して呼び掛け定着を図る。</u>	B	【達成状況】 児童の肯定的回答 89.8% 教職員の肯定的回答 94.1% 【次年度の方針】 ① 掲示物「ハッピーな～べ～号」を月2回以上活用して良い所を認め、人権週間に紹介したり、道徳科の授業を中心に多様な考えや価値観を認め合う機会を多く作ったりする。 ② 「ふわふわ言葉」を推奨し、 <u>思いやりのある言葉で相手に接することができるように、児童集会での啓発や各教室の掲示物、朝や昼の校内放送を活用して呼びかけて定着を図る。</u>
	A3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、きまりやマナーを守って生活している。」 における肯定的回答 ⇒教職員 80%以上 ⇒保護者 80%以上	① 基本的な生活習慣定着のため、年度当初、教職員の共通理解の徹底を図る。（清北小スタンダードの活用）また、学校や学級での様子をHPや学年だよりで積極的に発信し、保護者の理解・協力・連携を引き続き強化する。 ② 年度初めに学級できまりやマナーを確認し、問題行動が発生した時には共通理解し即対応する。また、児童会主体で啓発活動（いじめゼロ集会、きまりの確認、正しい廊下の歩き方）を行い、全児童が同じ価値観で実践できるようにする。 ③ 児童が自らマナーやきまりを再確認できるよう、掲示物を工夫したり、月初めの給食の時間を活用して全体指導をしたりする。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答 94.1% 保護者の肯定的回答 94.2% 【次年度の方針】 ① 基本的な生活習慣定着のため、年度当初、教職員の共通理解の徹底を図る。（清北小スタンダードの活用）また、学校や学級での様子をHPや学年だよりで積極的に発信し、保護者の理解・協力・連携を引き続き強化する。 ② 年度初めに学級できまりやマナーを確認し、問題行動が発生した時には共通理解し即対応する。また、児童会主体で啓発活動を行い、全児童が同じ価値観で実践できるようにする。 ③ 児童が自らマナーやきまりを再確認できるよう、全体と学級の生活目標で月初めに全体指導をする。

A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 における肯定的回答 ⇒児 童 80%以上 ⇒保護者 80%以上	① 異学年で形態を工夫したあいさつ運動を行う等、自治的な活動を推進する。 ② 教職員から積極的に挨拶をし、挨拶の模範を示すようにする。 ③ 児童会において挨拶を励行し、気持ちのよい挨拶をしている児童や学級を放送で紹介し、挨拶をしようとする意欲を高める。 ④ 廊下で先生とすれ違った際は、互いに挨拶や会釈ができるように、指導・声掛けをする。	【達成状況】 児童の肯定的回答 98.1% 保護者の肯定的回答 90.1% 【次年度の方針】 ① 異学年であいさつ運動に取り組み、挨拶のモデル等を提示し積極的な活動を推進する。 ② 教職員から積極的に挨拶をし、挨拶の模範を示すようにする。 ③ 気持ちのよい挨拶をしている児童や学級を放送で紹介し、挨拶をする意欲を高める。 ④ 相手や状況に合わせて挨拶や会釈ができるように、指導・声掛けをする。
A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒児 童 80%以上 ⇒教職員 80%以上	① 各種検定（鉄棒・水泳・縄跳び）において、今年度の目標値を設定させるとともに、中間にも目標値の確認を行い、より目標値に近づけるよう意識させる。 ② 各教科及び各活動において、振り返りカード等を活用して、振り返りを確実にし、自己の変容を確認させる。教職員は、結果でなく努力の過程を見取り、称賛し意欲を高める。	【達成状況】 児童の肯定的回答 88.9% 教職員の肯定的回答 100.0% 【次年度の方針】 ① 各種検定（鉄棒・水泳・縄跳び）において、今年度の目標値を設定させるとともに、中間にも目標値の確認を行い、より目標値に近づけるよう意識させる。 ② 各教科及び各活動において、キャリアパスポートや振り返りカード等を活用して、振り返りをし、自己の変容を確認させる。教職員は、結果でなく努力の過程を見取って称賛し、意欲を高める。
A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 における肯定的回答 ⇒教職員 80%以上 ⇒保護者 80%以上	① 「学年スクスク」、「全校スクスク」などの時間を活用した健康指導を継続するとともに、家庭でも児童のよさや頑張りが話題になるように家庭への周知を行う。 ② 「スクスクウィーク」や長期休業中の「スクスクチェック」により、家庭での生活習慣への意識を高めるとともに、できている児童を称賛し、取組を持続させる。 ③ 交通安全教室や避難訓練での振り返りを活用し、指導や称賛を行うことにより、児童自身の適切な判断力の向上を図る。	【達成状況】 教職員の肯定的回答 100.0% 保護者の肯定的回答 92.9% 【次年度の方針】 ① 「スクスク」などの時間を活用した健康指導を継続するとともに、家庭でも児童のよさや頑張りが話題になるように家庭への周知を行う。 ② 「スクスクウィーク」や「スクスクチェック」により、家庭での生活習慣への意識を高めるとともに、できている児童を称賛し、取組を持続させる。 ③ 交通安全教室や避難訓練での振り返りを活用し指導や称賛を行うことにより、児童自身の適切な判断力の向上を図る。 ④ 手洗い、消毒、三密を避ける等、コロナ感染症防止に努める。
A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒児 童 80%以上 ⇒保護者 80%以上	① 昼会や学級でのスピーチにおいて、頑張っていることなどについて話したり、聞いたりすることにより、目標に向かって努力することの大切さに気付かせるとともに、頑張りを認める機会を作る。 ② 係や委員会、清掃時の活動内容を児童自らが提案し、創意工夫して実行できるような場を設ける。 ③ 様々な学習活動において、目標をもって問題解決に取り組めるような課題を設定し、児童の活動への意欲を高める。	【達成状況】 児童の肯定的回答 88.9% 保護者の肯定的回答 90.2% 【次年度の方針】 ① 昼会や学級でのスピーチにおいて、頑張っていること等を話したり聞いたりすることにより、目標に向かって努力することの大切さに気付かせるとともに、頑張りを認める機会を作る。 ② 係や委員会、清掃時の活動内容を児童自らが提案し、創意工夫して実行できるような場を設ける。 ③ 様々な学習活動において、目標をもって問題解決に取り組めるような課題を設定し、児童の活動への意欲を高める。

A8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 朝の放送や健康観察のやり取りを中心に、学習の場以外でも、児童が英語を聞いたり話したりする機会を積極的に設ける。 ② AET や担任が授業だけでなく、朝の会・給食の献立・簡単な指示など、日常生活の中でも意識して英語で話したり、積極的にやり取りを見せたりして英語表現に慣れ親しませる。また、英語を使っている場面を見つけて教師が積極的にほめるようにする。 ③ 廊下や階段の蹴込板に英語の掲示物を貼り、定期的に貼り替えることにより、英語での表現に触れる機会を多くする。	【達成状況】 児童の肯定的回答 89.8% 教職員肯定的回答 94.1% 【次年度の方針】 ① 引き続き、朝の放送や健康観察のやり取りを中心に、学習の場以外でも、児童が英語を聞いたり話したりする機会を積極的に設ける。 ② 教職員は授業だけでなく、朝の会・給食の献立・簡単な指示など、日常生活の中でも意識して英語で話したり、積極的にやり取りを見せたりして英語表現に慣れ親しませる。また、児童が英語を使っている場面を見つけて教師が積極的にほめるようにする。 ③ 廊下や階段の蹴込板に英語の掲示物を貼り、定期的に貼り替えることにより、英語での表現に触れる機会を多くする。
A9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、宇都宮の良さを知っている。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上	① 生活科・社会科・総合的な学習の時間(宇都宮学)などで、宇都宮の歴史や伝統文化等を理解させ、地域素材を活かした教育活動の展開・充実を図りワークシート等にまとめることにより、良さを実感させる。 ② 児童が学んだ宇都宮の良さの情報を学年だよりやHP、学校公開日を活用して発信し、保護者との連携も図る。 ③ 道徳科では、校外活動や地域の方と関わった学習との関連を図り、郷土を愛する心情を育む。	【達成状況】 児童の肯定的回答 85.2% 【次年度の方針】 ① 生活科・社会科・総合的な学習の時間(宇都宮学)などで、宇都宮の歴史や伝統文化等にふれたり、地域素材を活かした教育活動の展開・充実を図りまとめたりすることにより、良さを実感させる。 ② 児童が学んだ宇都宮の良さの情報を学年だよりやHP、学校公開日を活用して発信し、保護者との連携も図る。 ③ 道徳科では、校外活動や地域の方と関わった学習との関連を図り、郷土を愛する心情を育む。 ④ 「親子で見付けよう、宇都宮！」など、親子で取り組む課題を設定し、親子で宇都宮の良さに親しむ活動を設ける。
A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒教職員 80%以上	① 各教科において、学習シートや単元のまとめなどでICT機器を、高学年は1日に2回以上、中・低学年は1日に1回以上、積極的に活用する場を設ける。 ② 一人一台端末やデジタル機器の活用場面を多くもち、児童が手軽に活用できるように基本的な操作方法(動画を含む)を指導し、活用する場を増やしていく。 ③ 図書館司書と連携を図り、低学年は週1回図書館を利用する時間を位置づけ読書に親しむ機会をつくったり、各教科において積極的に図書資料を活用し調べ学習を進めるよさに気づかせたりする。	【達成状況】 児童の肯定的回答 93.5% 教職員の肯定的回答 100.0% 【次年度の方針】 ① 各教科において、学習シートや単元のまとめなどで一人一台端末を、高学年は1日に2回以上、中・低学年は1日に1回以上、活用する場を設けたり、AIドリルを活用したりする。 ② 一人一台端末やデジタル機器の活用場面を多くもち、児童が手軽に活用できるように基本的な操作方法(動画を含む)を指導し、活用する場を増やしていく。 ③ 図書館司書と連携を図り、低学年は週1回図書館を利用する時間を位置づけ読書に親しむ機会をつくったり、全学年で教科内容に関連した読み聞かせを行ったりすることで、積極的に図書資料を活用し学習を進めるよさに気づかせる。

	A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、誰に対しても思いやりの心をもっている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① <u>生活科や総合的な学習の時間、会話科、道徳科などで、高齢者の気持ちなどを考える場を設け、自分たちに何ができるか考え、行動できるよう指導・支援する。</u> ② 地域教材（天祭、梨、田植え、生き物調査、川の一里塚）を扱う際、高齢者の方々努力により地域が現在のように住みやすくなっていることを指導する。 ③ お世話になっている地域の方の協力に対し、お礼の手紙を書く等の活動を通して、感謝やいたわりの心を育んでいく。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答 89.8% 教職員の肯定的回答 94.1% 【次年度の方針】 ① <u>生活科や総合的な学習の時間、道徳科等の時間を活用し、高齢者の気持ちなどを考える場を設け、自分たちに何ができるか考え、行動できるよう指導・支援する。</u> ② 地域教材（天祭、梨、田植え、生き物調査、川の一里塚）を扱う際、先人たちの努力により地域が現在のように住みやすくなっていることを指導する。 ③ お世話になっている地域の方の協力に対し、お礼の手紙を書く等の活動を通して、感謝やいたわりの心を育んでいく。
	A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒教職員 80%以上	① 社会科や理科などの時間を活用し、環境や国際理解、食に関する指導を行ったり、教科横断的な指導を実施したり、工夫・改善を図る。 ② 児童会活動を中心に環境問題や防災等について話題にして、持続可能な社会への関心を高め、自分たちの生活と地球規模の課題のつながりを意識させ、チェック週間を設ける等、自分に出来ることに取り組ませる。 ③ キャリアパスポートのワークシートを活用して、夢や目標に向けて努力している自分の姿を捉えさせ、意欲を高める。 ④ 「持続可能な社会」に関する図書資料のコーナーや掲示物をつくり、児童の意識の高揚を図る。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答 92.6% 教職員の肯定的回答 88.2% 【次年度の方針】 ① 社会科や理科、家庭科、総合的な学習の時間等の時間を活用し、環境や国際理解、食に関する指導や、教科横断的な指導の工夫・改善を図る。 ② 児童会活動を中心に環境問題等を話題にして、持続可能な社会への関心を高め、自分たちの生活と地球規模の課題がつながっていることを意識させ、チェック週間を設定し、自分に出来ることに取り組ませる。 ③ キャリアパスポートのシートを活用して、夢や目標に向けて努力している自分の姿を捉えさせ、活動意欲を高める。 ④ 「持続可能な社会」「SDGs」に関する図書コーナーや掲示物をつくり、児童の意識の高揚を図る。
	B2.4 児童は、積極的に自分の考えを表現したり、相手の話を聞いたりしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、積極的に自分の考えを表現したり、相手の話を聞いたりしている。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒教職員 80%以上	① 児童の主体的・対話的な活動を重視した授業展開を工夫したり、自分の考えを表現する場を計画的に位置づけ、相手を意識した表現方法の指導を行ったりする。 ② 表現力やコミュニケーション力の育成を図るため、各教科や学校行事、外部講師を招き、話すことや聞き方を重視した授業の展開を工夫する。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答 90.7% 教職員の肯定的回答 94.1% 【次年度の方針】 ① 児童の主体的・対話的な活動を重視した授業展開を工夫したり、授業形態を工夫して自分の考えを表現する場を計画的に位置づけ、相手を意識した表現方法の指導を行ったりする。 ② 表現力やコミュニケーション力の育成を図るため、各教科や学校行事で外部講師を招き、話すことや聞き方を重視した授業の展開を工夫する。
目指す学校の姿	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	① 少人数指導の推進、かがやきルームの活用、個に応じた支援の工夫などを見直し、適切な支援ができるよう配慮する。 ② スクールカウンセラーや市教育センターなどの関係機関と保護者との連携を図り、児童の実態に応じた適切な指導・支援を行う。 ③ 特別な支援を必要とする児童への関わり方や指導法について研修の機会をもち、情報を適宜教職員で共有・工夫し、より効果的な指導・支援ができるようにする。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答 94.1% 【次年度の方針】 ① 校内支援委員会による組織での対応、少人数指導の推進、かがやきルームの活用、個に応じた支援の工夫などを見直し、適切な支援ができるよう配慮する。 ② スクールカウンセラーや市教育センター、SSWなどの関係機関と保護者との連携を図り、児童の実態に応じた適切な指導・支援を行う。 ③ 特別な支援を必要とする児童への関わり方や指導法について研修の場をもち、情報を適宜教職員で共有・工夫し、より効果的な指導・支援ができるようにする。

A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒保護者 80%以上	① 「いじめは絶対にダメ」を継続指導し、いじわる、嫌がらせなど相手が不快になることはしないことを徹底して指導する。 ② 「いじめゼロなかよし集会」において、校長講話や児童会による啓発活動を行い、よりよい人間関係作りに努める。 ③ 日々の様子やいじめアンケート、教育相談などをもとに、いじめの早期発見・早期解決に努め、毅然とした態度で指導を行う。 ④ 月1回、児童に学校生活に関するアンケートを行い、いじめの早期発見に努める。 ⑤ 教職員は、普段から他教室にも目を配り、問題があると捉えた場合は即対応し、指導する。	【達成状況】 児童の肯定的回答 100.0% 保護者の肯定的回答 85.3% 【次年度の方針】 ① 「いじめは絶対にダメ」を継続指導し、いじわる、嫌がらせなど相手が不快になることはしないことを徹底して指導する。 ② 「いじめゼロなかよし集会」において、校長講話や児童会による啓発活動を行い、よりよい人間関係作りに努める。 ③ 月1回の学校生活アンケートや、日々の様子や教育相談などをもとに、いじめの早期発見・早期解決に努め、毅然とした態度で指導を行う。 ④ 教職員は、普段から他教室にも目を配り、問題があると捉えた場合は即対応し、指導する。
A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め合うクラスをつくってくれている。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒保護者 80%以上	① 道徳科の授業や朝の会・帰りの会等で、「ハッピーな～べ～号（一人一人のよさを記入する掲示物）」を月2回以上活用し、友達の良い所を積極的に認めることで、一人一人の自己肯定感を高める。 ② 学級活動などにおいて、個性や特技を生かす場を意図的に設け、その頑張りを称賛し、児童一人一人のよさに目を向ける指導をする。 ③ 互いの個性を理解し、よりよい人間関係作りができるよう学習や活動形態を工夫する。 ④ 児童が欠席した場合、保護者と連絡を密に取り、互いに様子を伝え合うなど、担任が児童との話す機会をもつ。 ⑤ 児童からの悩み相談やトラブルは即日解決に努める。	【達成状況】 児童の肯定的回答 99.1% 保護者の肯定的回答 92.9% 【次年度の方針】 ① 道徳科の授業や朝の会・帰りの会等で、「ハッピーな～べ～号」を月2回以上活用し、友達の良い所を積極的に認めることで、一人一人の自己肯定感を高める。 ② 学級活動などにおいて、個性や特技を生かす場を意図的に設け、その頑張りを称賛し、児童一人一人のよさに目を向ける指導をする。 ③ 互いの個性を理解し、よりよい人間関係作りができるよう学習や活動形態を工夫する。 ④ 児童が欠席した場合、保護者と連絡を密に取り、互いに様子を伝え合うなど、担任が児童との話す機会をもつ。 ⑤ 欠席状況共有シートを活用し、全職員が情報を共有して支援体制を整えられるようにする。
A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	① 日本語指導ボランティアや特別支援教室との連携を図りながら、学習や生活に必要な日本語表現を身に付けさせる。 ② 各教科や外国語科・外国語活動において、異なる文化慣習について話題にするなど学級指導を十分に行い、互いの文化を大切にしようとする心情を育てる。	【達成状況】 教職員の肯定的回答 94.1% 【次年度の方針】 ① 特別支援教室と連携を図りながら、学習や生活に必要な基礎学力の向上を図る。 ② 各教科や外国語科・外国語活動において、異なる文化慣習について話題にするなど学級指導を十分に行い、互いの文化を大切にしようとする心情を育てる。

A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、活気があり、明るく生き生きとした雰囲気である。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 小規模校の特性を生かし、一人一人を大切にした教育活動（昼会スピーチなど）の展開や、状況や場面に応じて話す相手を意識させた指導を継続していく。 ② 学習活動におけるねらいや目標を明確にし、見通しをもって解決できるよう支援の充実を図る。 ③ 自己の成長を感じられるように振り返りを行い、必要に応じてそれを生かし繰り返し取り組める場を設定することで、児童の意欲の向上に努める。 ④ 「ことばの時間」などの学びを生かして、状況や場面に応じて話す相手を意識する指導を継続していく。	【達成状況】 児童の肯定的回答 91.7% 保護者の肯定的回答 93.0% 【次年度の方針】 ① 小規模校の特性を生かし、一人一人を大切にした教育活動（昼会スピーチなど）の展開や、状況や場面に応じて話す相手を意識させた指導を継続していく。 ② 地域と関連した学校行事・オープンスクールなどにおいて児童の活躍している姿が表れるように、学習活動におけるねらいや目標を明確にし、見通しをもって解決できるよう支援の充実を図る。 ③ 自己の成長を感じられる振り返りを行い、必要に応じてそれを生かして繰り返し取り組むことで、児童の意欲の向上に努める。 ④ 「ことばの時間」での学びを生かして、状況や場面に応じて話す相手を意識する指導を継続していく。
A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	① 各調査や学級における児童の実態を担任や特別支援教室担当教員、学力向上担当教員、保護者が共有し、それをもとに学級及び児童各個人の適切な目標を設定しながら学力向上に努める。 ② 日常の授業実践を重視し、児童の学習状況を的確に把握することにより、朝の学習の時間や習熟度別学習を効果的に活用し、学習内容の確実な理解と定着を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答 99.1% 【次年度の方針】 ① 各調査や学級における児童の実態を担任や特別支援教室担当教員、学力向上担当教員、保護者が共有し、それをもとに学級及び児童各個人の適切な目標を設定しながら学力向上に努める。 ② 日常の授業実践を重視し、児童の学習状況を的確に把握することにより、朝の学習の時間や習熟度別学習を効果的に活用し、学習内容の確実な理解と定着を図る。
A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校に関わる教職員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	① 共通理解すべき事項について、打合せ・掲示板・Google アプリなどによる周知を徹底し、全職員が連携、協力して、学習指導や児童指導に取り組める体制を強化する。 ② 栄養士、司書、AET、特別支援教室担当教員、学力向上担当教員、学級支援事務など多様な専門性を有する学校スタッフの各種行事等での役割を、実施計画に明確に位置づける。 ③ 担任以外の教職員を、各学級に配属し協力して児童指導や事務処理の支援にあたる。	【達成状況】 教職員の肯定的回答 100.0% 【次年度の方針】 ① 共通理解事項について、打合せ・掲示板・Google アプリなどによる周知を徹底し、全職員が連携、協力して、学習指導や児童指導に取り組める体制を強化する。 ② 栄養士、司書、AET、特別支援教室担当教員、学力向上担当教員、学級支援事務など多様な専門性を有する学校スタッフも各種教育活動の実施計画に位置付け、協力して業務に取り組む。 ③ 担任以外の教職員を、各学級に配属し協力して児童指導や事務処理の支援にあたる。
A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校に関わる教職員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒教職員 80%以上	① 月一回・週一回リフレッシュデーを設定し、計画的に業務を行うことにより、情報交換や事務処理の時間を確保する。 ② 出退勤時刻を自分自身で管理したり、目標退勤時刻を各自が決めて業務を行ったりすることで、勤務時間厳守の意識を高める。 ③ 教員の事務作業等を、事務スタッフなどの職員が集約して実施することにより、業務の効率化を図る。	【達成状況】 教職員の肯定的回答 100.0% 【次年度の方針】 ① 情報交換や事務処理の時間を確保するためにさくら連絡網やミライム掲示板を活用して業務の短縮化を図る。 ② リフレッシュデーは特に出退勤時刻を意識したり、目標退勤時刻を各自が決めて業務を行ったりすることで、勤務時間厳守を図れるようにする。 ③ 教員の事務作業等を、事務スタッフなどの職員が集約して実施することにより、業務の効率化を図る。

A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、小学校と中学校が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒保護者 80%以上	① 地域学校園の分科会で指導方針等の共通理解を図り指導していくとともに、学習や児童指導の情報交換・連携を充実させ、小中学校間の連携を強化する。 ② 小中一貫教育に関する取組の様子を、HPや各種たより、掲示物などを活用して発信し、周知していく。	【達成状況】 児童の肯定的回答 92.5% 保護者の肯定的回答 90.2% 【次年度の方針】 ① 地域学校園の分科会で指導方針等の共通理解を図り指導していくとともに、学習や児童指導の情報交換・連携を充実させ、小中学校間の連携を強化する。 ② 小中一貫教育に関する取組の様子を、HPや各種たより等を活用して発信し、周知していく。
A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 における肯定的回答 ⇒保護者 85%以上 ⇒地域住民 85%以上	① 特認校として家庭・地域・企業と連携した特色ある教育活動（「板戸学習プログラム」等）を教育課程に位置付け、年間指導計画を見直し、改善を図りながら実践していく。 ② 町探検や周辺施設との関わりなど、各活動において、地域の教育力を生かした取組ができるよう継続して実施するとともに、取組の様子を掲示・発信する。	【達成状況】 保護者の肯定的回答 93.0% 地域住民の肯定的回答 100.0% 【次年度の方針】 ① 特認校として家庭・地域・企業と連携した特色ある教育活動（「板戸学習プログラム」等）を教育課程に位置付け、年間指導計画を見直し、改善を図りながら実践していく。 ② 町探検や周辺施設との関わりなどの各活動において、地域の教育力を生かした取組ができるよう継続して実施するとともに、取組の様子を掲示・発信する。
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 における肯定的回答 ⇒保護者 85%以上 ⇒地域住民 85%以上	① 学級懇談会や個人懇談等の機会や学年だより等の各種便り、HP、Google「クラスルーム」等を通して、教育活動の方針や内容、児童の成長の様子を伝え、家庭との連携・協力を図る。 ② 学校・家庭が連携協力した環境整備作業や外部講師・各種団体を招いた教育活動を計画・実施し、より主体的に学ぶ姿勢や地域を愛する心情を育む。	【達成状況】 保護者の肯定的回答 93.0% 地域住民の肯定的回答 100.0% 【次年度の方針】 ① 学級懇談会や個人懇談等の機会や学年だより等の各種便り、HP等を通して、教育活動の方針や内容、児童の成長の様子を伝え、家庭との連携・協力を図る。 ② 学校・家庭が連携協力した環境整備作業や外部講師・各種団体を招いた教育活動を計画・実施し、より主体的に学ぶ姿勢や地域を愛する心情を育む。
A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 80%以上 ⇒保護者 80%以上	① 授業時間帯に門扉・校舎出入口の施錠を徹底するとともに、<u>防犯対策について表示することで、児童・来校者への防犯意識を高める。</u> ② 駐車場等での規則を文書やHP等で周知することで、交通事故の防止に努める。 ③ <u>暑さ指数の掲示や、こまめな水分補給など、養護教諭と連携し暑さ対策を周知・徹底することで熱中症事故等の防止に努める。</u> ④ 学校HP、配付文書、ポスター等を活用し、家庭と連携し、感染症対策（マスクの着用・三密回避・手洗いの徹底等）に取り組む。	【達成状況】 教職員の肯定的回答 100.0% 保護者の肯定的回答 94.2% 【次年度の方針】 ① 授業時間帯に門扉・校舎出入口の施錠を徹底するとともに、<u>防犯対策について表示することで、児童・来校者への防犯意識を高める。</u> ② 駐車場等での規則を文書やHP等で周知することで、交通事故の防止に努める。 ③ <u>暑さ指数の掲示や、こまめな水分補給など、養護教諭と連携し暑さ対策を周知・徹底することで熱中症事故等の防止に努める。</u> ④ さくら連絡網、保健だより等を活用し、家庭と連携し、感染症対策に取り組む。

	A25 学校は、学習に必要な I C T 機器や図書等を整えている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、I C T 機器や図書等を学習に活用している。」 における肯定的回答 ⇒児 童 80%以上 ⇒教職員 80%以上	① 授業や係活動など、児童が学校生活の中で積極的に I C T を活用できるよう、一人一台端末の整備を進める。 ② 蔵書の充実を図るため、図書の新規購入に加え、地域学校園での「相互貸借制度」や市立図書館の「希望図書貸し出しサービス」、学級文庫の定期的な入れ替え等を今後も継続して実施する。 ③ 学年に応じたプログラミング教育の実践のために、I C T 支援員と協力し、プログラミング教材を活用しやすい環境を整えたり、教員の研修を設けたりする。	【達成状況】 児童の肯定的回答 93.5% 教職員の肯定的回答 100.0% 【次年度の方針】 ① 授業や係活動など、児童が学校生活の中で積極的に一人一台端末が活用できるよう、有効な活用方法について情報交換をする。 ② 蔵書の充実を図るため、図書の新規購入に加え、地域学校園での「相互貸借制度」や市立図書館の「希望図書貸し出しサービス」、学級文庫の定期的な入れ替え等を今後も継続して実施する。 ③ 学年に応じたプログラミング教育の実践のために、I C T 支援員と協力し、教材を活用しやすい環境を整え、教員の指導力の向上を図る。
本校の特色・課題等	B1.3 学校は、地域の素材や教育力（歴史や自然、文化、人材等）を生かし、教育活動の充実を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、地域の素材や教育力（歴史や自然、文化、人材等）を生かし、教育活動の充実を図っている。」 における肯定的回答 ⇒児 童 80%以上 ⇒教職員 80%以上	① 特認校としての特色ある教育活動を学校経営の軸として教育課程に位置付け、学校と家庭・地域の双方向的な関係としての「地域とともにある学校」を実践する。 ② <u>生活科や社会科・総合的な学習の時間など、地域の素材や教育力を生かした学習活動を意図的・系統的に取り入れる。</u>	【達成状況】 児童の肯定的回答 84.3% 教職員の肯定的回答 100.0% 【次年度の方針】 ① 特認校としての特色ある教育活動を学校経営の軸として教育課程に位置付け、学校と家庭・地域の双方向的な関係としての「地域とともにある学校」を実践する。 ② 生活科や社会科・総合的な学習の時間など、地域の素材や教育力を生かした学習活動を意図的・系統的に取り入れる。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの場面で教育活動が制限されたが、80%以上の肯定的な回答を得た項目は、児童評価 22/22、保護者評価 20/21、地域住民評価 13/13、教職員評価 27/27 と多く、全体として学校教育に対する満足度及び達成度は高い。

「あいさつ」については、本年度も感染症対策をしながらあいさつ運動を実施し、校内放送で挨拶のよさを紹介する等、挨拶をする気持ちよさを実感させるようにした。小中連携でのあいさつ運動も実施でき、児童・保護者・地域住民・教職員全てで市の平均を上回った。今後も教職員・保護者・地域の方々が連携し、挨拶に対する意識の高揚を図っていききたい。

また、「目標に向けた粘り強い取組」では、保護者の肯定的回答が市平均を上回った。きよきた秋まつりや夢育劇場等、各行事で夢や目標に向かって努力する大切さについて指導を積み重ねてきた結果が現れていると思われる。今後も保護者・地域の皆様のご協力をいただきながら継続して指導していききたい。

○「小中一貫教育・地域学校園」の取組に関しては、児童・保護者・地域の肯定回答が昨年度より上回った。地域学校園統一お弁当の日や図書日より、乗り入れ授業、中学校訪問等の活動を実施し、小中のつながりが感じられた。次年度も中学校と連携して児童生徒を育てていきたい。

「宇都宮の良さ」では、児童の肯定的回答が市の平均を昨年度より下回った。各教科、総合的な学習の時間及び学校行事を通して宇都宮の伝統文化にふれる機会も多いので、機会をとらえ、児童が宇都宮に誇りをもてるような取組を続けていきたい。「I C T 機器の活用」については、保護者の肯定的回答が昨年度より市の平均を下回った。昨年度より一人一台端末が配置され、積極的に活用しているところだが、効果的な活用法については研修中である。今後、児童の学びを広げ深められる活用が出来るよう、努めていきたい。

7 学校関係者評価

- ・肯定的回答比較において「昨年度よりプラス」「市平均よりプラス」が多く、素晴らしい。
- ・人前での発表は継続してほしい。場数を踏めば上達していくことが考えられる。日頃からコミュニケーション力の強化を図っていることが功を奏している。引き続き指導してほしい。

- ・挨拶する、きまりやマナーを守る、宿題はきちんとやることについては、今後もしっかり指導してほしい。挨拶については教職員が積極的に先頭に立って活動し、児童の模範となっている。地域内では住民同士で挨拶をしていないことが散見される。児童は保護者の動向を見ているので、今後も一層努力していきたい。
- ・ICT機器活用、SDGs、板戸の歴史など学ぶ内容が多岐に渡り指導は大変だと思うが、これから社会に出て必要な力なので、子どもたちに力をつけていただきたい。
- ・学校と地域の連携行事がコロナ禍でできなかったのも、来年度は実現に向け情報を密にとり力を合わせていく。
- ・書類の作成などが大変だと思われる。「先生方の働き方改革」を進めてほしい。
- ・特認校として地域と連携した「板戸学習プログラム」等で年間の計画を立て、地域と連携し工夫しながら学習していることは、地域との連帯感を高め、効果的な学習活動になっている。今後も北小の教育に期待している。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

多くの項目において、市の肯定的回答率が同等または上回る結果となった。コロナ禍の中でも、学校として機会を逃さずに学校行事や校外学習、外部講師による授業を実施したことが、学校教育活動の充実につながっていると評価されたのではないと思われる。

次年度も、「挨拶」については、地域学校園でのあいさつ運動等の機会も活用し、引き続き自発的な挨拶の啓発に努める。また、いじめ防止の指導については、定期的に行っているアンケートや教育相談の機会のみでなく日頃からいじめの早期発見・早期対応に努めるとともに、校内で行っているいじめ防止対策の活動内容をHPや各種たよりで積極的に発信し、保護者、地域住民の理解を得ていきたい。GIGAスクール構想推進については、ICT機器の有効な活用方法に関する情報を共有して、情報活用能力の育成を図り、確かな学力が身に付く「分かる授業」が展開できるよう努めていく。

今後も、本校の特色である「地域とともにある学校」の一環として板戸河岸や鬼怒川を核とした地域の教育資源を活用した教育活動を地域と学校が連携しながら推進していく。併せて、働き方改革の推進も喫緊の課題であるので、教職員一人一人が勤務時間を意識し、業務の効率化や精選、見直しを図り、限られた時間で最大の効果が得られるよう工夫・改善をしていく。